

製品名: ビメンチン (リン酸化 Ser56) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab05623

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	VIM
別名	VIM; Vimentin
遺伝子 ID	7431.0
SwissProt ID	P08670
免疫原	抗血清は、Ser56 のリン酸化部位周辺のヒトビメンチン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

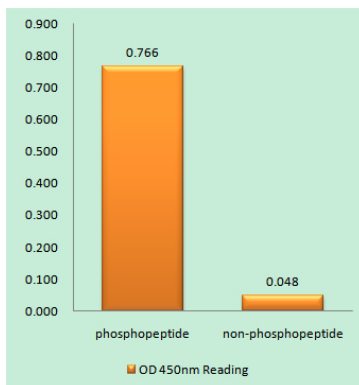
この遺伝子は中間径フィラメントファミリーのメンバーをコードします。中間径フィラメントは、微小管およびアクチンマイクロフィ

ラメントとともに細胞骨格を構成します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞の形状維持、細胞質の完全性、そして細胞骨格相互作用の安定化を担っています。また、免疫応答にも関与し、低密度リポタンパク質 (LDL) 由来コレステロールのリソソームからエステル化部位への輸送を制御します。さらに、細胞接着、遊走、そして細胞シグナル伝達に関与する多くの重要なタンパク質のオーガナイザーとして機能します。この遺伝子の変異は、優性粉粒体白内障を引き起こす。[RefSeq 提供、2009年6月],機能: ビメンチンは、様々な非上皮細胞、特に間葉系細胞に見られるクラス III 中間径フィラメントである。、オンライン情報: ビメンチンエントリ,PTM: 間葉系起源の様々な細胞において最も顕著なリン酸化タンパク質の1つ。細胞分裂中にリン酸化が促進され、その際にビメンチンフィラメントは著しく再編成される。、配列注意: イントロン保持。、類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。、サブユニット: ホモポリマー。HCV コアタンパク質と相互作用する。LGSN および SYNM と相互作用する。、組織特異性: 線維芽細胞で高発現、Tリンパ球およびBリンパ球で若干発現、バーキットリンパ腫細胞株ではほとんどまたは全く発現しない。多くのホルモン非依存性乳癌細胞株で発現している。

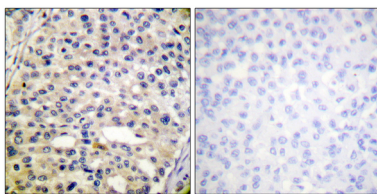
研究分野

神経科学

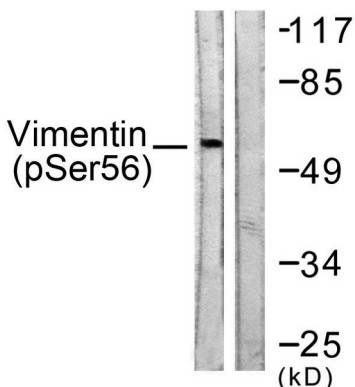
画像データ



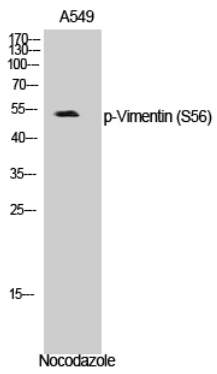
ビメンチン (リン酸化 Ser56) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ビメンチン (リン酸化 Ser56) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ノコダゾール 1 μ g/ml で 16 時間処理した A549 細胞のライセートを、ビメンチン (リン酸化 Ser56) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化ビメンチン (S56) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析